

図書館における図書の除籍について

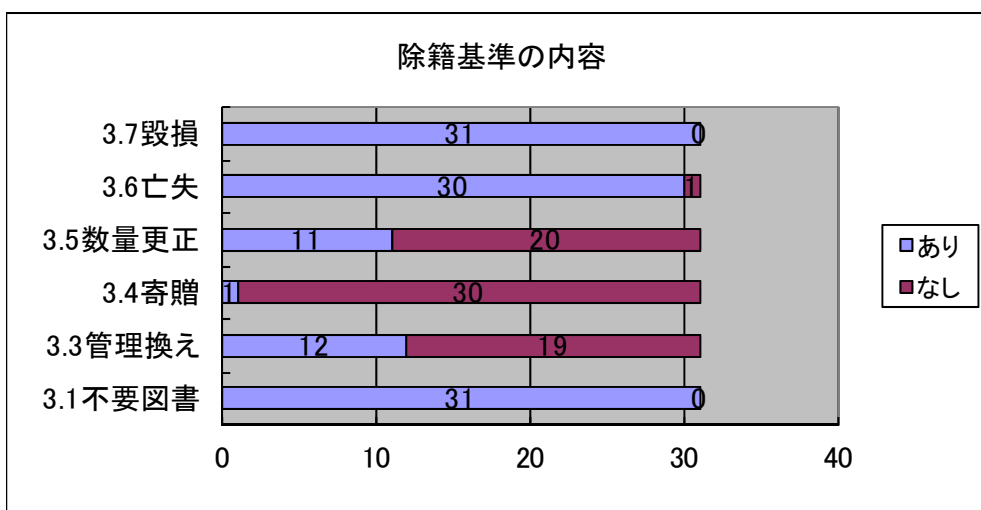
06L4343 森 文音

1. 除籍とは

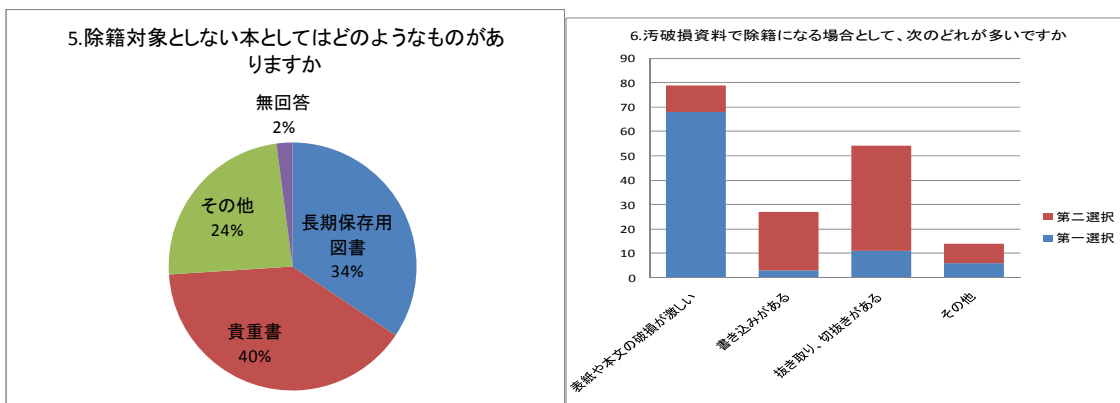
除籍（Weeding）とは、一度受け入れた図書を、所在不明・回収不能・切り取り・破損・汚損・不要等の理由で、保管記録（カタログ）の上から取り除く（登録抹消する）ことを「除籍」という。一般的には「廃棄」ともいうが、図書を物理的に廃棄処分することと、保管記録から除くことを区別するため、本論文では「除籍」を用いることとした。また、現物を実際に処理した場合を「払出し」ともいう。

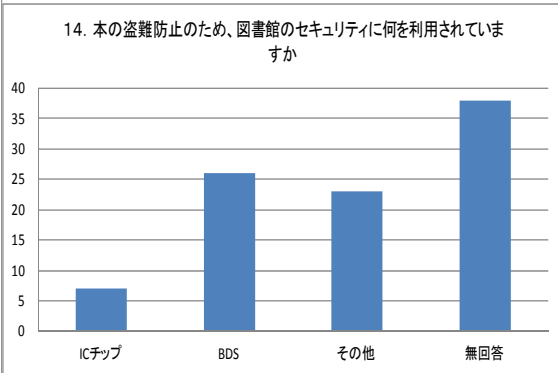
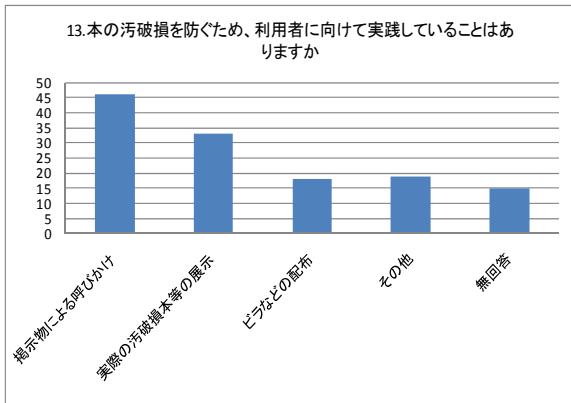
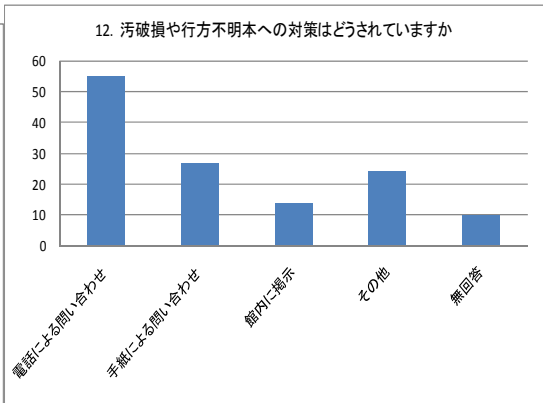
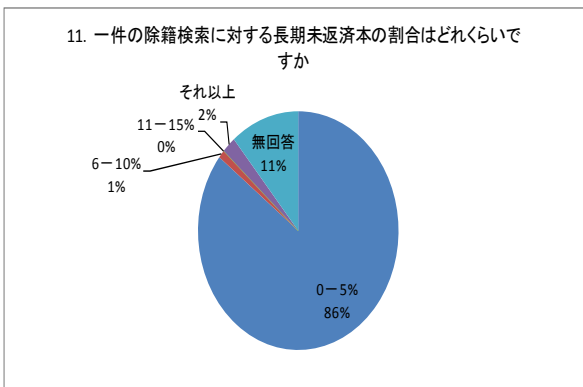
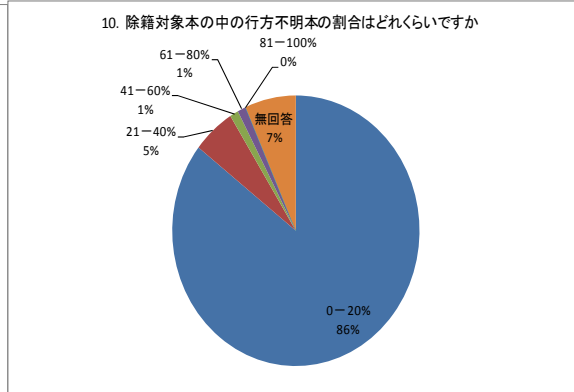
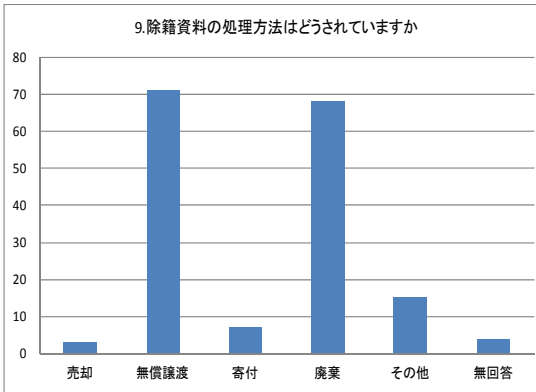
現物のあるものは、所定の手続きをして蔵書から除去する。

2. Web 調査結果



2. アンケート調査結果(抜粋)





3. 考察

今回の調査を経て、国内で統一された除籍規則というものは明確に存在しないものの、ある程度の基準というのは図書館において必要とされているものと考えます。その理由は

- (1) 職員が除籍作業をおこなう上で担当者の作業を容易にするため。
- (2) 職員の独断による不当な廃棄によって図書の除籍が行われないため
- (3) 資料の検索水準の低下を防ぎ図書館の品質を保つことにある。